

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）胆江ブロック 会議録

【胆江ブロック：奥州市、金ケ崎町】

○ 日 時：令和2年7月29日（水）14時00分～16時00分

○ 場 所：奥州市役所本庁 3階 講堂

○ 出席者

① 会議構成員

奥州市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

金ケ崎町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県南教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般10人、報道5人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

(1) 後期計画の基本的な考え方等について

(2) 後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料No.3「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」、資料No.4「県南地域における地域の産業教育の拠点となる専門高校の整備について」に基づき説明。

【小野寺 金ケ崎町副町長】

- ・ 資料No.1「6 後期計画の具体的な取組」の(1)について伺う。地方創生を進めるに当たり、地域に貢献する人材を育成することはとても必要なことであると考えており、そのためにはどこの地域でも1学級校を含めて高校の存在は不可欠であると考えている。「1学級校の存在が地方創生の推進に必要となっている地域もあり」と記載されているが、必要としていない地域があるとすれば、どのような地域を想定しているのか。
- ・ 同じく(1)について、「県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある学校」と記載されているが、県教育委員会として、このような役割を担っていない学校があると捉えているのか。

【県教委】

- ・ 地域にとってかけがえのない学校、例えば市町村に一つしかないような学校は、いわゆる小規模校であることが多いが、地域と学校が協働した取組を展開することにより、多くの学校が地域活性化の一翼を担っていると考えている。地域にとって必要ではない学校はないものと捉えており、本年度から県教育委員会でき取り組む「高校の魅力化促進事業」により地域の御協力をいただきながら小規模校の魅力向上を進めていきたいと考えている。

- ・ 「県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校規模を確保」することについて、現状では盛岡地区にこのような7学級校が設置されているが、例えば胆江地区においては、水沢高校を現在の6学級から5学級に減ずるという計画的な学級数調整は基本的に行わないということである。この趣旨としては、県政課題である医師の確保や、法曹人材の確保に向けた環境整備も重要であることから、高い志を持って大学進学を目指す生徒の学びの場を確保するということであり、このように表記しているところである。また、盛岡工業高校についても、専門的な学びの多様性を望む産業界の意向等を考慮し、1学年7学級を維持しているところである。

【新田 奥州市副市長】

- ・ 後期計画案の基本的な考え方のうち、「生徒の希望する進路の実現」については、ブロック内の学校規模をできる限り維持することで、学びの選択肢と多様な進路希望が実現できる幅広いフィールドを整備することは、非常に重要なことだと思う。
- ・ 当市では本年度から「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に取り組んでいるところであり、地方創生を担う人材育成等を人口減少対策の新たな視点として取り入れているところである。後期計画案の基本的な考え方のうち、「地域や地域産業を担う人づくり」については、地域の未来を担う人材を育成しようとする考え方であり、当市の総合戦略で目指す方向とも合致していることから、納得できる考え方である。
- ・ 後期計画案で示された今般の二つの基本的な考え方については賛同するものである。
- ・ 後期計画案の具体的な取組において、原則として現在の学校・学科及び学級規模を維持するという方針については支持したい。
- ・ また、具体的な取組の「地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備」に関しては、科学技術の進展や産業構造の変化等に伴って、専門的な知識や高度な技術を身に付けるために、実践力の育成が重要という方向性には共感できる。県南地域において自動車産業や半導体産業を中心とした産業集積が進んでおり、ものづくり産業を担う人材育成に対する高校教育の役割が大きいという認識にも異論をはさむ余地はなく、いわて県民計画における「北上川バレープロジェクト」の方向性にも沿った内容であろうと考える。
- ・ しかしながら、今般お示しいただいた、県南地域におけるブロックを越えた工業高校の統合案には疑問が残る。
- ・ 産業人材のニーズに幅広く対応できる工業高校の充実を図るとする、令和7年度以降に計画されたこの統合案については、①各校の定員の充足率が好調であること、②通学の遠隔化により工業高校進学者の減少が懸念されること、③県南地域3校ともそれぞれの特色を生かした教育を実践していること、の3点から再考を求めたい。
- ・ 後期計画案の基本となる考え方には大筋で賛同するものであるが、各論となる再編計画の内容には、異議を唱えざるをえない。
- ・ 過日、「奥州市から工業高校をなくすことがないよう県教育委員会に働きかけてほしい」という趣旨の要望書が、水沢工業高校の同窓会をはじめとする5団体から当市長に提出された。ぜひ、その願意を汲み取っていただきたい。

【小野寺 金ヶ崎町副町長】

- ・ 後期計画の基本的な考え方については、これまでの意見交換も踏まえながら取りまとめた内容であり、概ね良いと思う。人口減少が様々な分野の人材不足に繋がることが懸念されている中で、地域の将来を担う人材を育成していくことは大きな課題であり、高校教育が果たす役割は非常に重要であると考えている。
- ・ このような課題の解決に向けて、計画案に示されているように、学校と地域が連携しながら

取り組んでいくということは非常に大切な考え方だと思う。当町のように、地元で高校が1校しかない地域においては、高校がなくなることにより、学校と地域の連携の道も閉ざされてしまうのではないかと懸念していたところであるが、今般示された計画案の基本的な考え方に基づき、高校教育の環境づくりを進めてほしい。

- ・ 他方で、後期計画の具体的な取組として示されている、県南地域における工業高校の統合案には疑問が残る。県南地域にはものづくり産業が集積しており、ものづくり産業を支える人材を育成する必要があるという考えには賛同できる。しかし、今ある工業高校がそれぞれの役割を担っており、現状において人材育成が行われているものと考えている。3校を統合することでプラスになることもあるかもしれないが、統合しないままでも人材育成は可能ではないか。統合をしなくても、統合により期待される効果を得る方法が他にもあると考えられるため、現状では統合案への地域住民の賛同は得られないものとする。

【阿部 奥州市認定農業者協議会会長】

- ・ これまでの検討会議でも述べてきたように、単なる数合わせで高校再編を行うべきではないと考えおり、後期計画の基本的な考え方については、大筋はこれで良いだろうと考える。
- ・ 具体的な取組で示されている県南地域の工業高校の統合については、確かに3校が統合されれば、スケールメリットを生かした多様な学びができると思うが、問題は、生徒がその場所まで通学できるのかということだと思う。仮に、日々保護者が車で送迎しなければならないような状況になれば、保護者にとっても大きな負担になることと思う。統合校の設置場所を巡って様々な問題が生じることも懸念される。
- ・ 学校長が中心となって胆江地区内の県立高校の魅力づくりに取り組んでいくことにより、地区外の高校や私立高校に進学する生徒数を抑えることができ、胆江地区内の県立高校の入学人数を増加させることができるものとする。県教育委員会としても、学校への指導を適切に行うことが必要なのではないか。
- ・ 県南地域における工業高校の統合が避けられないのであれば、通学における負担増を回避するためにも、水沢工業高校を単独校として残し、一関工業高校と千厩高校産業技術科を統合する方が良いのではないかと考える。

【菊地 奥州商工会議所専務理事】

- ・ 後期計画の基本的な考え方で示されている「生徒の希望する進路の実現」や「地域や地域産業を担う人づくり」という理念に関しては、概ね賛同できる。
- ・ 後期計画の具体的な取組として、水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校産業技術科の統合案が初めて示されたが、これまで3回行われた地域検討会議の中で、このようなブロックを越えた統合という選択肢について意識が及ばなかったため、非常に唐突感や違和感を覚える。産業教育の拠点の整備が、ブロックや学区を越えた形態での統合によってなされるものであるのか非常に疑問である。
- ・ 産業界の立場から見ると、工業高校の学科は製造業系と設備・建設・土木系に大別されており、各校で混在している。学科の再編・整備をすることも、特色づくりの一つの方法ではないかと考える。県南地域における3校統合の構想は、おそらく製造業関連人材の育成を想定したものであると思うが、建設業や建設関連業等も重要な産業であるため、このような人材の育成についても高校教育に期待しているところである。
- ・ 学校長には、統合や学級減等に危機感を持っていただき、経営者の視点を持って、学校の魅力向上や入学人数確保についてトップセールスも含めた取組を行うよう期待するところである。

【千葉 金ヶ崎町商工会事務局長】

- ・ 後期計画の基本的な考え方に示された「(1) 生徒の希望する進路の実現」、並びにその取組方針である「①学校規模をできる限り維持し、学びの選択肢を確保」することや、「②一定の学校規模も維持」することと、具体的な取組として示された「(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備」における3つの地域の学校統合との関連性がわかりにくい。
- ・ 地元の間人としては、今回示された県南地域における工業高校の統合案に対しては、残念な気持ちである。3校の統合により見込まれる効果は、統合することによってしか得られないものであるのか、統合しなくても同様の効果を得る別の方法があるのではないかと考えるところである。少子化の状況にあって、将来的に高校再編は進んでいくものと思うが、県内全体を俯瞰して、メリハリを利かせた高校再編の方法が他にあるのではないかと考える。

【県教委】

- ・ 後期計画の基本的な考え方については、概ね御理解をいただき、皆様から肯定的な御意見をいただいた。他方で、各論の部分、特に県南地域における大規模な工業高校の新設については様々な御異論をいただいた。
- ・ 統合対象となっている3校の現在の定員充足率から見て、統合の必要はないのではないかとこの御意見をいただいたところであるが、県南地域における工業高校の新設計画は、後期計画期間（令和3年度から令和7年度までの5年間）にこだわらず、令和7年度以降の統合時期を想定しているものである。参考資料No.3（資料冊子6頁）に示したような後期計画期間後の将来の状況も見据えて、提案させていただいたところである。
- ・ 岩手県における高校再編の取組は20年程前から行われているが、その頃提案した水沢地区の統合案は、当時の胆沢高校、水沢工業高校、水沢商業高校を一つにするというもので、普通科と工業科と商業科を統合するというものであった。また、宮古地区において示した統合案は宮古北高校と宮古商業高校によるもので、普通科と商業科を統合し、総合学科を新たに設置するというものであった。いずれの案に対しても、反対の御意見が多く、結果的に統合は行わなかったという経緯がある。
- ・ おそらく当時は、初めて少子化に対応した高校再編を行わなければならないという状況にあり、様々な模索をしながら再編計画の策定に取り組んでいたことと思う。以来、子どもたちのことを第一に考え、岩手の高校教育をより良くするための高校再編の在り方を研究してきたところであり、単なる「数合わせ」の統合を目的とした学校統合をしてはならないと考えている。
- ・ 生徒数の減少に対し、主に学級数調整や学科改編で対応してきた取組についても、これまで行った地域検討会議等で様々な御意見をいただいております、これらを踏まえ、単なる数合わせではなく学びの選択肢も失わせない高校再編の在り方について検討した結果が、今般お示した県南地域における工業高校の統合案であると御理解いただきたい。
- ・ 今回の県南地域の統合案では、通学圏が広域に及ぶ統合を行うこととなるため、通学が困難になる生徒への対応が一番の課題であると認識している。新設校の設置場所が問題となるところであるが、現時点では設置場所についての具体の構想はなく、白紙の状態である。今後、公共交通機関の利便性等を総合的に勘案しながら検討していきたい。また、後期計画案には、統合により公共交通機関による通学が困難となる場合には支援策を検討すると記載しており、支援策の具体的な在り方も含めて対応していきたいと考えている。
- ・ 胆江地区には、農業、工業、商業の学校が単独で設置されているなど選択肢が多いにもかかわらず、生徒が流出していることについて、これまでの地域検討会議等でも課題とされているが、その明確な理由は把握しかねている。地区内の県立高校の学校長をはじめとする教職員は、特色ある教育活動に一生懸命に取り組んでいると理解している。

【浅沼 奥州市PTA連合会会長（奥州市立江刺東中学校PTA会長）】

- ・ 後期計画の基本的な考え方、及び具体的な取組に関しては、このまま進めていただいて構わないと思う。
- ・ ハイスクールガイドをもっと活用する等、様々な情報発信により、中学校低学年から、あるいはそれよりも早い時期から、高校を知る機会、さらには職業を知る機会を設けていただきたい。そうすれば、漠然と普通科へ進学する生徒が減少し、専門高校へ進学する生徒の増加に繋がるのではないかと思う。
- ・ 県南地域における工業高校の統合案については、新しい学科が設置されることにとても魅力を感じるが、自分自身が水沢工業高校で機械分野を学び仕事に就いている経験からも、水沢工業高校を存続させていただきたいと考える。ただし、工業高校の各学科で学んでいる内容を、これからの時代に対応した内容に変えていく必要はあるのではないかと感じている。
- ・ 仮に、県南地域における工業高校の統合案を進めるのであれば、通学が困難となる生徒のために寮を整備する等の対策が必要であると考えます。

【菅原 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校PTA会長】

- ・ これまでの地域検討会議等において、高校進学時に胆江地区から他のブロックへの流出が多いことの一因として、胆江地区の高校における魅力ある学校づくりが不十分ではないかという議論がされてきたと伺った。例えば、工業高校についてであれば、工業高校に対して子どもたちが魅力を感じていないのではなく、例えば製造業や建設業といった、工業高校を卒業した先の産業の魅力が、子どもたちに伝わっていないことが要因としてあるのではないかと考える。仮にそうであれば、県教育委員会や市町村、及び地元企業等が連携して、産業の魅力を子どもたちに伝えるような取組を行っていけば、改善できるのではないかと思う。
- ・ 少子化や生徒数の減少を理由に、学校統合を考えることには疑問を感じる。やはり、胆江地区、両磐地区それぞれに工業高校が存在することに意義があると思う。地元の学校を卒業して地元の産業界に就職し、地域を支える人材になるという雰囲気醸成していくことが、魅力ある岩手、胆江、両磐の地域づくりに繋がるのではないか。
- ・ 県南地域における工業高校の統合案については、新設校の設置場所によって、通学が困難になることが想定されるため、かえって子どもたちの進路選択の幅を狭めてしまうことが懸念される。また、「ILC誘致を見据えた人材の育成」という統合による効果については、今年に入って様々報道されている欧州や米国等の情勢に鑑みれば、その現実味に疑問を感じるころである。これらのことを踏まえて、県南地域における工業高校の統合案については、一考する必要があるのではないかと思う。

【田面木 奥州市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画の基本的な考え方として示されている「生徒の希望する進路の実現」、「地域や地域産業を担う人づくり」ということについては、これまでの地域検討会議等で議論されてきたことを踏まえた内容であり、基本的には賛同できるものである。
- ・ 高校進学時に胆江地区から多数の生徒が流出していく原因については、地区内の校長とも意見交換をするが、明確に把握しかねる状況である。胆江地区の高校に魅力が感じられないということではなく、まちづくり等、他の要因があるのではないかと考えている。
- ・ 地域産業を担う人づくりに向けて、地域の産業教育の拠点となる専門高校を整備するために、県南地域において工業高校を統合するという案も、悪くない考え方であると思うが、問題なのは工業だけなのかということである。奥州市には基幹産業として農業もあるが、現状では、農業高校の数が減少し、農業の学びを志望する生徒の数も減少している。このような状況に、県として対応していくことも重要なのではないか。スマート農業や6次産業化、さらには

Society5.0とも言われる今後の社会の変化に対応した人材を育成するためにも、工業だけに限定しない専門高校の整備が必要なものと考える。

- ・ 県南地域における工業高校の統合は、先ほどからも意見が出ているように、通学範囲が広域になることから、現時点では賛同できないという立場である。現在ある学科の改編等により工業の学びを充実させることで対応できないものか、改めて検討していただきたい。

【千葉 金ヶ崎町教育委員会教育長】

- ・ 前期計画の取組については、生徒減少への対応という色合いが強かったが、今般の後期計画案では、子どもたちに内容豊かな教育を提供するための環境整備に向けた方策や、生徒の夢の実現に向けた方策について、これまでの意見交換等で出された様々な意見や地域の要望をしっかりと汲み取って示されており、よく検討されていると評価できる。
- ・ 他方で、県南地域における工業高校の統合案については、ハード面的なものしか見えないと感じる。ハード面を整備することの他に、ソフト面をどう整備するのかということについて具体的に示していただかないと、やはり数合わせなのかという印象が否めない。計画案の基本的な考え方等は良い内容であると思うので、後期計画の具体的な取組も含めて県民の皆さんに御理解をいただくためには、ソフト面についてももう少し踏み込んで提示する必要があるのではないか。
- ・ 人口減少や少子化に伴う生徒数の減少の状況に鑑みれば、統廃合を含む高校再編は避けて通れないものと思う。しかし、当地区における産業構造に基づいた人材育成の観点に鑑みれば、ブロックを越えた統合については疑問が残る。胆江地区に所在する様々な企業では、水沢工業高校の卒業生が多数働いており、その方々の子弟である「二世社員」も増加している状況にある。地元企業はこのように安定した雇用を望んでおり、このような形態を維持していくためにも水沢工業高校の存在は欠かせないものである。
- ・ 資料No.4に記載されている「統合による効果」には素晴らしいことが示されているが、現時点での専門高校における専門教科の単位数等の状況に鑑みると、実現可能なものか甚だ疑問である。カリキュラムにかなり手を加えなければ、実現は難しいのではないかと。

【大平 胆江地区中学校長会会長（奥州市立江刺南中学校長）】

- ・ 後期計画の基本的な考え方に示された「生徒の希望する進路の実現」ということは、中学校関係者の誰もが願うことである。そのためには、高校の選択肢が確保されているということが前提であり、保護者が重要視することとしては、通学可能であるかということである。地域の状況を考慮し、時間的、経済的な負担が増加する学校統合については、ぜひ慎重に判断いただきたい。
- ・ 教職員定数の充実に向けて、いわゆる高校標準法の改善について国への働きかけを行っているとのことであるが、ぜひ継続していただきたいと思う。また、国の基準が必ずしも岩手の実情に即していないということと同様に、広大な県土を有する岩手の中においても、地域によって状況がかなり異なっているため、それぞれの地域の状況に即した基準があってもいいのではないかと考えるところである。
- ・ 今般示された県南地域における工業高校の統合案については、将来的にはこのようなことが求められていくものと個人的には考えているが、現時点において、当地区でこの案が受け入れられるかどうかということについては、別の問題と考える。後期計画期間後に向けて、改めて検討するとしても良いのではないかと。
- ・ 中学生に対して、高校や職業に関する情報提供を早い時期から行った方が良いという御意見があった。本校では、高校説明会や先輩の体験に学ぶ会等のキャリア教育を行っているところであるが、地区内の中学校長とも情報共有を行い、対応を検討していきたい。

【県教委】

- ・ 後期計画案を作成するに当たり、県の商工労働観光部とも意見交換を行ったところである。県内に進出している大手企業は、岩手の人材を高く評価し、大規模な投資を行い、世界最先端の環境整備や雇用創出等を図っており、今後も継続していくとのことであった。また、企画や開発段階からの地場企業との連携にも期待しているとのことであった。そのような評価や期待に応えるために、岩手の高校教育が人材育成に担う役割はとて大きいと認識している。オール県南で人材育成に向けた教育を行っていきたいと考えているところである。
- ・ 県南地域の工業高校の統合案は単なる数合わせではなく、産業界の動向も参考にしながら、理念を持った統合案をお示ししたということをご理解いただきたい。

【県教委】

- ・ 熱心な意見交換をいただき、感謝申し上げます。
- ・ 農業教育に関する御意見をいただいたところであるが、「県立高等学校新整備計画」（平成12年度から平成21年度の10年間）において、農業高校の多くを総合学科高校（岩谷堂高校、北上翔南高校、一関第二高校、紫波総合高校、久慈東高校、一戸高校）に再編し、学びの場を移行した経緯がある。総合学科高校には商業の学びもあるため、商業と農業をともに学び、6次産業的な考え方を育成する教育も行っているが、さらに今後、農業教育の在り方についても検討が必要であるという認識を持っているところである。
- ・ これまで行ってきた地域検討会議等では、単なる数合わせの高校再編であってはならないという御意見をとても多くいただいたことから、後期計画案を作成するに当たっては、数合わせという発想は一切持ち込まずに、これからの子どもたちの学びをどうするかという視点で計画案を作成し、お示ししているところである。
- ・ 本日の意見交換では、後期計画の基本的な考え方、及び具体的な取組の方向性については、多くの方から賛同や支持、共感という意見をいただきつつも、他方では、県南地域における工業高校の統合案について、反対や様々な課題、疑問点もいただいたところである。
- ・ 今年度内を目途に、後期計画を策定したいと考えており、本日いただいた様々な御提言、御意見を十分に踏まえていく所存である。
- ・ 今後とも、本県教育の振興のため、一層の御理解と御協力を賜るようお願い申し上げます。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【胆江ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	奥州市	新田 伸 幸	奥州市 副市長	代理
2		阿部 正 三	奥州市認定農業者協議会 会長	
3		菊地 浩 明	奥州商工会議所 専務理事	
4		浅沼 雄	奥州市PTA連合会 会長	
5		田面木 茂 樹	奥州市教育委員会 教育長	
6	金ヶ崎町	小野寺 正 徳	金ヶ崎町 副町長	代理
7		千葉 勝	金ヶ崎町商工会 事務局長	
8		菅原 和 博	金ヶ崎町立金ヶ崎中学校PTA 会長	
9		千葉 祐 悦	金ヶ崎町教育委員会 教育長	
10	地区中学校長代表	大平 優	胆江地区中学校長会 会長(奥州市立江刺南中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
11	県議会議員	郷右近 浩	岩手県議会議員	
12		千葉 秀 幸	岩手県議会議員	
13		佐々木 努	岩手県議会議員	
14	県立高等学校	及川 晃 貴	水沢高等学校長	
15		畠山 一 弘	水沢農業高等学校長	
16		佐々木 光 男	水沢工業高等学校長	
17		佐藤 由記男	水沢商業高等学校長	
18		及川 浩 純	前沢高等学校長	
19		及川 研 一	金ヶ崎高等学校長	
20		鈴木 智 香	岩谷堂高等学校長	
21		荒木田 光 孝	杜陵高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
22	県教育委員会事務局等	福德 潤	県南教育事務所長	
23		太田 和 成	県南教育事務所教務課 指導主事	
24		梅津 久仁宏	教育次長	
25		木村 克 則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
26		須川 和 紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
27		森田 竜 平	学校調整課高校改革課長	
28		谷地 信 治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
29		市丸 成 彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
30		小野寺 一 浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
31		女鹿 光 介	学校調整課高校改革担当主査	